

# KFC 帰国者新長田交流会

## 2014 年度 KFC 帰国者新長田交流会总结

KFC 帰国者新長田交流会在众多团体与个人的协助、支持下，顺利的度过了 2014 年度，迎接到崭新的一年度。首先在此表示感谢。

每次的交流會，各位歸國者二世志願者從會場準備，出席簿管理，到太極拳秧歌廣場舞的指導，對歸國者交流活動給與大力的支持。在歸國者內部形成了互助的局面。二世的志願者在各个方面进行支援。例如，大家互相用中文沟通，在精神上获得安心感。

各位日语志愿者老师不仅耐心的教归国者们日语也认真的回答每个人的问题。比如，对于归国者的写作上的日语语法的指导等等。而且和大家一起参加活动，给大家带来日语交流的机会。并且积极参加参加 KFC 的相关活动，例如音乐会，舞鹤归国纪念馆郊游，「幸福村」的郊游等。

2014 年秧歌，太極拳，廣場舞的演出雖然不多，但是歸國者各位每次都全力以赴。演出成為了歸國者們表現自我，發表成果的舞臺。大多數歸國者在回國之前經歷了生死離別等艱辛苦難，回到日本後也因為語言和文化的差異，沒有得到足夠的自我表現的機會。

在 2015 年 KFC 會繼續舉辦歸國者交流會，加強歸國者們的日語學習，充實課外活動。同時還會在近畿地區其他歸國者支援團體的協助下，把神戶節的秧歌演出活動搞得更加成功响亮。  
(呼徳力根)

## 1 年間の活動を終えて

KFC 帰国者新長田交流會は多くの方々のご支援・ご協力のもとで無事 2014 年度を送り、2015 年度を迎えることが出来ました。まず感謝の気持ちを申し上げます。

日々の交流會では、歸國者二世のボランティアさんによる會場設営・出席簿管理から太極拳講師や踊りの指導まで幅広く助けていた

頂きました。当事者の活躍と母語による支援・指導・交流は歸國者一人一人のやすらぎや楽しみ、学びの場となりました。つまり、中国語で話せる安心感と開放感のやすらぎ、中国文化を取り入れた踊りやゲームによる楽しみ、日本語及び文化習慣などへの学びができたと考えます。

日本語ボランティアの方々も日々の日本語学習のほか、興味のある新聞記事や個人的な発表に必要な日本語文書を突然持ってきて訂正して欲しいなどの歸國者一人一人の要望に合わせて丁寧に日本語のサポートをしていただきました。更に、交流活動にも一緒に参加することによって日本語コミュニケーションへの刺激も与えていただきました。

また、特別行事では、KFC 関連のコンサートに参加したり、県の国際イベントに参加したり、「しあわせの村」や舞鶴引揚記念館などへ遠足に出かけたりしました。特別行事は歸國者の方々にとって楽しみであるほか、社会勉強にもなっています。交通機関や文化施設の利用方法やマナー、そして集団行動に必要なルールなどの学習もできています。

秧歌や太極拳、広場踊りの出演が今年度はあまりありませんでしたが、歸國者の方々は一所懸命に取り組んで来ました。発表の場というのは自己表現の場でもあり、晴れ舞台でもあります。歸國者の方々には死別・離別やいじめ、暴力など大変な苦勞をされた方が多く、歸國後も言葉と日本文化が分からないことにより、いじめや排除を受けることが多くある一方、晴れの場は少なかったです。

引き続き 2015 年度は交流會を中心に日本語学習と特別活動も充実させていきます。そして神戸まつりへの秧歌出演を近畿全般の歸國者とその支援団体と協力してすすめ、この晴れ舞臺を盛り上げて行きたいと思ひます。

(呼徳力根)

## 村井健司先生（正在筹备「归国者会」的设立工作代表）的访谈

Q: 请您先自我介绍一下。

1952年9月3日出生于中国山东省荣成市。兄弟6人，有2个孩子。曾经在大连铁道职工子弟学校学习。中国高中毕业后，在塑料公司的国有企业工作过，担任经济师助理。

Q: 您何时来的日本?来日本后生活怎么样?很辛苦吗?

1992年，与妻子和大女儿来到日本。因为不懂日语，刚来的时候非常辛苦。现在与妻子、小女儿住在一起。

日本的社会环境很好，非常干净。

曾经的辛苦，怎么说呢……现在生活稳定了，没有什么问题。

Q: 来日本后您从事过什么工作?

在尼崎的职业训练学校学习了一年的焊接后，先后在3个单位工作过，在日本共工作了17年。最后从三菱重工关联的子公司退休了。

Q: 除了KFC您还参加其他团体的日语教室或是交流会吗?

兵库县归国者支援会的日语教室，学园都市的日语教室。

Q: 您怎么看KFC交流会?您在KFC交流会担任二世的领导，有让您觉得很辛劳的事吗?

KFC为我们归国者提供了相互交流的场所，让大家聚在一起。这一点非常好。参加日语教室和交流活动，精神压力减轻很多，每次都觉得很享受，非常有意义。没有什么不好的地方。

兵库县二世会(正在筹备「归国者会」的设立工作)，事务所在冈本，2010年成立的，主要是以解决二世生活困难为宗旨。我担任了4年的干事长，今年的5月开始担任会长。与KFC一起关照大家的生活，得到大家的信任是非常荣幸的事情。

Q: 一般归国者和其家庭有什么困难?

日语学习方面。特别是去医院的时候，听不懂医生的话。大家基本上都已经退休了，年金很少。日常生活方面也有困难。9月13日，在福冈召开了九州律师会。关于归国者现在和将来的问题进行了总结，准备提交给安倍总理和厚生劳动省。

Q: 现在中日，中韩关系似乎不太好，您怎么认为?

嗯，站在普通公民的立场、怎么看说呢。那是政治家，上层领导应该解决的问题。但是呢，作为普通公民来讲，还是希望保持友好的关系。



村井さんは、非常に料理上手で、KFC 新長田交流会でも、いつも大量の中華料理作りで腕を振るってくださっています!

村井先生，煮饭非常好吃。每逢`KFC 新长田交流会时，村井先生都会为大家做很多中国料理。

## 村井 健司さん(「帰国者の会」設立準備会代表)インタビュー

Q：まず簡単に自己紹介をお願いします。

1952年9月3日に中国山東省栄成市で生まれました。きょうだい6人、子どもが2人います。大連鉄道職工子弟学校で勉強しました。中国では高校を卒業しました。中国の国営企業で働いたことがあります。プラスチック工業の会社で、経済師のアシスタントをしていました。

Q：いつ誰と日本に来ましたか。日本にきてどうでしたか。苦労したことはありますか。

1992年に妻と長女と一緒に日本に来ました。日本語が分からなかったのが、最初の時はかなり大変でした。現在は妻と次女と一緒に住んでいます。

日本は社会環境がよく、きれいです。

苦労したことについては、どうやって言った方がいいのかわかりませんが、今はあまり問題はありません。

Q：日本に来てどんな仕事をされましたか。

尼崎の職業訓練学校で一年間の溶接を勉強しました。その後、3か所で17年間働きました。最後に、魚住の三菱重工関連のキャタピラの会社で定年を迎えました。

Q：他団体の日本語教室や交流会などに参加されていますか。

兵庫県帰国者支援会の日本語教室、学園都市の日本語教室に参加しています。

Q：KFCの交流会のいいところ、悪いところを教えてください。またKFC交流会で2世のリーダーを務めていただいています。が、苦労されていることなどありますか。

KFCは、帰国者をまとめて、交流の場を提供してくれるのがいいです。日本語教室や交流活動などに参加し、精神のストレスが減り、毎回、楽しんでます。非常



に有意義だと思います。悪いところは基本的にありません。大体OKです。

兵庫県の帰国者2世の会(現:「帰国者の会」設立準備会)の事務所は岡本にあります。2010年にできました。二世の生活上の困難を中心に解決しています。私は4年間幹事長を務め、今年の5月に会長になりました。KFCと協力して皆さんの面倒を見ており、皆さんの意欲が湧くようにしています。皆さんに信用されるのはなによりです。

Q：帰国者やその家族の方はどのような問題を抱えておられますか。

日本語学習です。特に病院に行くときに大変です。お医者さんのいうことは聞き取れません。ほとんどみんなはもう定年しました。年金が少ないです。日常生活の困難もあります。9月13日に福岡で九州弁護士会の会議があり、帰国者の現在の問題と今後の課題に関してのレポートをまとめて、安部総理や厚生労働省に提出しました。

Q：現在、日中関係、日韓関係があまりよくないですが、どのように感じておられますか。

うん、普通の国民として、どういったらいいのか。それは国の政治家、トップリーダーが解決すべきことです。でも、普通の国民として、やはり友好を保って欲しいです。



我是在日华人，妻子是残留孤儿，22年前居家来日本定居。我的出生地在河南省安阳附近，那里是中华文化的发祥地，殷墟，甲骨文是闻名中外的名胜文化古迹。我的父母是教师，浓郁的文化氛围使我从童年就对音乐，美术等产生了浓厚的兴趣。

小时候写不好毛笔字，经常被竹板打手掌，小学时用毛笔写作业，写大楷，三年级开始写字帖，大概这就是剪定了书法基础。

青壮年时代，由于社会和家庭原因历尽坎坷与磨难，没法如愿进入艺术院校学习，但后来在工厂工会工作时又开始用毛笔写字标语，用粉笔写板报，又有了练字的机会。我还在工厂的皮鞋设计室搞皮鞋样板设计，是那时练就了剪纸艺术的刀功和剪功吧。

到日本定居四个月后，我们到一家皮革厂工作，不会日语只能从事体力劳动，虽然辛苦劳累，但能自食其力，心情还好，但是好动的我并不满足这种不变的简单的劳作，工作中我发现工厂里有一些废包装纸被当作垃圾烧掉了，在征得老板同意后，我把这些纸整理整理，利用上午和下午工作休息时间，在别人喝茶聊天的时候，自己到了一个僻静的角落练毛笔字。休息日还在家里用废报纸练习毛笔字，就这样坚持十年时间。同时我学了东京书道师通讯教育，学习了一年，有了合格证书，在漫长的岁月里我写的字得到了同事们的认可，社长家佛堂上的无星寿，公司事务室的商卖繁盛，被其收藏的挂轴佛心，均为我工作时所写。

2006年由于年龄和健康原因辞职，那年我66岁，中国，日本忙忙碌碌了几十年，一下闲居在家还真有些不习惯，还好有人介绍我们参加了兵库县中国归国者支援会的一些活动，以后活动范围越来越大，结识的人越来越多，我的兴趣也越来越广泛，把我搁置几十年的音乐爱好重拾回来，二胡，口琴都是青少年时喜欢过的乐器，不时吹拉演奏，心情有了满足愉悦感。

再谈一谈剪纸，一次去了神户南京街购物，偶然发现了一家购物袋上彩印女孩的形象很可爱，随即产生了剪下来贴到纸上欣赏的念头，经过了剪贴竟出现意想不到的美感效果。以后又靠我的书写功底独创彩色百福，百寿，百蝴蝶图案。后又扩大到十二生肖及人物如孔子，

关羽，红楼梦十二金钗，观音菩萨，嫦娥奔月等。。。

回中国探亲访友到文化市场或书画展览转转，欣赏书法名家或剪纸大师们的名作，在太原市旅游时，经人介绍还去了中国民间艺术家辛先生家并参看了他的名作六米长卷清明上河图，并进行了剪艺的交流，辛先生是祖传剪纸艺术。

大家，而我年近古稀偶发奇想，靠几十年在皮革皮鞋行业使用刀剪的功底，我的心应平地剪到了中国古典名著和神话传说人物以及守株待兔，滥竽充数等成语故事。逢年过节我把自己的小品做成贺卡送给左邻右舍，送给日语班同学，老师，归国者的内部刊物，友邻通讯，外大通讯都登载过我的小品，中文导报者曾两次转载我的星赠小品向全国在日华人的新年祝福，并电话致谢，作为交流课程我应邀两次去小学校讲述剪纸并现场表演，在日中友好协会兵库县中国归国者支援会的倡导和支持下从2009年到2013年在加古川等地先后举办过四次书法与剪纸个展。前年和去年又被住宅小区老人会推荐参加姬路市和地区高龄者作品展其作品是观音菩萨，嫦娥奔月及三国志中的关羽。2013年我被中国归国者定着促进中心推荐为首次中国归国书画展手工艺品评选委员，我的创意作品‘百彩蝶及彩蝶图案长卷受到了中国和日本参观者一致好评。去年我的书道作品，〈清风佛两袖 怀明月满一〉条幅参展中国归国者书道展。。。

每次展出会上当看到人们浏览我的作品时或在学校看到孩子们专注地看我剪纸表演时，在神户或大阪为日语教室讲解并表演剪艺时听到他们啧啧称赞时深深感到了这是对我最好的回报，我是愉快的也有幸福感。作为一名记忆力逐渐衰退的高龄者在有生之年还愿意努力去学去创作，这样才不会有寂寞和失落感。当你专注地投入到某种事情时真的就不知老之将至了。

从中日友好的角度来讲，书道，剪纸是民间的草根交流的工具和桥梁，我愿继续努力去做，愿多为大家奉献一些更美好的东西，常言道〈老有所务 其乐无穷〉

## 世の中のために生きる第二の人生、その喜びは無限である

張 雨均

私は、在日華人です。妻が残留孤児で、22年前に家族で来日し、現在も日本に住んでいます。私は中国の河南の安陽の近くで生まれました。私の生まれた故郷は中国文化の発祥地で、殷の遺跡、甲骨文などは国内外でも有名な文化遺跡の名所として知られています。私の両親は学校の先生で、家庭の濃厚な文化的環境の中で、私は幼い時から音楽、美術などに深い興味をもっていました。

小さい頃、筆で字が上手に書けず、硬い竹の板でよく手を叩かれました。小学校の頃には宿題をする時も筆を使い、三年生からは「大楷」（中国書道の中の一つの字体）の書き方を練習しました。書道の基礎はその頃に出来たと思います。

青壮年時代には、社会と家庭の事情でいろいろな困難と試練に会い、念願の芸術系の学校にも進めなかったです。その後工場の労働組合で仕事をしましたので、筆で標題を書いたりチョークで黒板ニュースを書いたりする機会が増え、もう一度筆を使う機会に恵まれました。また靴の工場で靴の設計の仕事をしたので、そこで切り絵の基本となる小刀の使い方と切り方を学び、腕を磨いてきたと思います。

日本に来て四か月後、私は、靴の工場で働くことになりました。日本語が分からなかったため、体力的な仕事にしかつかなかったです。仕事はきつかったのですが、誰かに頼らず自立できたという意味で、気持ち的にはとても楽でした。しかし、好奇心旺盛な私はこのような単純労働に満足していませんでした。私は、工場で要らなくなった紙をゴミとして処分しているのを知り、工場長と相談し、その処分する紙をもらい、皆さんがお茶を飲んだりお話しをして休憩を取っている午前と午後の休憩時間に、私は一人で隅っこで静かに筆の練習をしました。休みの日には家で新聞紙を使って筆の練習をしました。この

ような練習は十年続けました。同時に私は東京書道院の通信教育を受講し、一年後

には合格証書をもらいました。長い時間かかりましたが、私の書いた字はついに同僚たちにも認めてもらえるようになりました。工場に勤めていた時には、社長の家の仏前に飾る仏像の絵、工場の事務所に飾っている掛け軸の「商売繁盛」という字などを書いてあげました。

2006年に私は健康等の理由で66歳をもって工場を退職しました。中国と日本で何十年間も多忙な毎日を送ってきた私にとって、家ですることのない日々を過ごすことにはなかなか慣れなかったです。ちょうどその時友人から兵庫県帰国者支援の会を紹介してもらったので、その交流活動に少しずつ足を運ぶようになりました。その後交流活動はますますその幅が広くなり、活動を通して知り合いもたくさん増えました。私の趣味もだんだん増え、何十年も忘れていた音楽の趣味も復活しました。中国の二胡、ハーモニカは私が青少年時代に好きだった楽器で、それをもって演奏したり表現したりするととても楽しく喜びを感じます。

また切り絵の話に戻りますが、ある日神戸南京町で買い物をして歩いていたらあるお店の買い物袋に可愛い女の子の絵が印字され、それがとてもきれいに映っているのを偶然見かけました。その瞬間私はその絵を切り絵にして紙に貼ったらもっと楽しいのではないかと思いました。切り絵にして紙に貼ってみたら、想像を超えるくらいその美しさは増えました。

その後、私は自分独自の書道の理論と腕に基づいて福、寿、蝶々などの絵を描きました。また十二支、人物例えば孔子、関羽、紅楼夢（中国の古代の名作）の十二の女性たち、慈悲の女神、「嫦娥奔月」（注：中国古代の物語）の中の人物を表現したり、その表現の幅はますます広くなりました。



中国への里帰りの際にも書道展示会などに足を運び、書道界、切り絵界の有名な人の作品に触れてきました。中国の太原というところを旅していた時、知人の紹介で中国民間芸術家の辛先生の家に訪問する機会に恵まれました。その時、長さ約6メートルにもなる「清明上河図」の辛先生の作品も見せていただき、切り絵に関して色々と意見を交わすことができました。辛先生の切り絵の芸術は祖先から代々受け継がれたものでした。

老後になって偶然の発想から、また私の十何年間の靴工場で鍛えられた小刀の使い方と腕で私は自然と中国の古典名作、神話伝説の人物また「守株待兎」、「濫竽充数」（注：中国の成語故事）等の故事成語を描くようになりました。

毎年お正月になると私は自分の作品をハガキにして近隣の方たち、日本語教室の友達、先生たちに送ったりします。これまで私の作品は、帰国者の内部刊行物、有隣通信、外大通信などに掲載されました。「中文導報」という新聞は、日本全国の華人たちに贈る新年の挨拶に、かつて2回も私の「星」を題材と作品を使いました。新聞社から電話でお礼をいただいた時はとても嬉しかったです。

また交流の一環として、私は2回も小学校に招かれ、切り絵についてお話をし、その場で切り絵の切り方を披露しました。

日中友好協会の主催と協力の元で、2007年から：

切り絵の個人展を4回も行いました。昨年と去年には居住地の老人会の推薦で地区と姫路市の高齢者作品展に出展することができました。その時の作品は慈悲の女神、「嫦娥奔月」、三国誌の中の関羽でした。2013年には、中国帰国者定住促進センターから初めて中国帰国者書道展審査委員に選ばれ、私の作品「百彩蝶及蝶図」の絵は中国と日本のお客様から賞賛されました。去年また私の書道作品「清風佛両袖 懐明月満一」を中国帰国者書道展に出展することができました。

展示会でお客様たちが私の作品を鑑賞するのを見て、また学校で子どもたちが私の切り絵作品作りに夢中になっているのを見て、また神戸、大阪の日本語教室で切り絵を披露する際に下から感動のつぶやきが聞こえてくる時、私は最高の喜びと幸せを感じます。

記憶力も徐々に衰えていく一人の高齢者にとってこれからも続けて努力し、学び、創作を続けることは、孤独感と無力感から解放されることへと繋がっていくのではないかと思います。一つのことに夢中になり没頭している時は年齢の重なることも忘れていきます。

日中友好の立場から見ると、書道、切り絵は民間の草根交流の懸け橋と道具になると思います。

私は引き続き努力し、皆さんにより良い作品を提供していきたいと思えます。

「世の中のために生きる第二の人生、その喜びによう



<挂在办公室的张雨均先生的作品『西游记』、『关羽』  
事務所に飾らせていただいている張雨均さんの作品  
「西遊記」と「関羽」>

## ○通常交流会

日本語学習

&amp;

秧歌踊り／太極拳／広場踊り

今年度新たに広場踊りが始まりました！



## ○特別行事

4月 神戸まつりに向けて秧歌踊り練習

5月 神戸まつりで秧歌踊り出演！

暑い中、たくさんの方に見ていただきました！

6月 舞鶴遠足

(引揚記念館、赤レンガ倉庫等)

とれとれ市場にも行きました。



7月 暑気払いを兼ねた料理交流会



9月 しあわせの村へ遠足

緑の中で太極拳を楽しみました。



10月 カラオケ

KOBE カンタービレコンサートへ参加

11月 映画鑑賞「追捕」

高倉健は中国でも

大変有名な俳優

12月 料理交流会

1月 映画鑑賞



未来につなぐコンサート～音楽で紡ぐアジア共生のつどい～

帰国者のパネル展示をしました

3月 新春会





## 2014年の感想文

2015年1月6日对于归国者来说是新年后的第一个活动日。「新年好」、新年后的第一次见面，大家互相进行着新年的问候。在归国者当中有许多人旅居日本已经20多年。与中国的春节相比，大家可能更适应日本的春节。一位二世的归国者对笔者说，「与中国的春节相比，日本的春节休养生息的意思更浓重。平时的上班族大家都回老家，与家人一起吃团圆饭，畅谈。静静得休息。中国的春节，亲戚之间走亲访友，相互拜访非常热闹，但是假期后却是非常的劳累」。归国者当中有很多人是中年的时候来到日本的。因此对于归国者来说，在中国养成的习惯与价值观念来日本后与日本的社会，文化相融碰撞是每天的都要面对的课题。能够如此轻松的说出中日的文化差异，是归国者在长时间的在日本的生活过程中已经逾越了中日文化冲突碰撞的见证。

笔者从2014年4月开始担当归国者的生活组织员的工作，到目前为止马上就快有一年了。我偶尔会想，对于平均年龄60岁的归国者来说，每周二特意做电车，巴士，中途甚至要倒车来参加新长田的交流活动，这意味着什么呢。在揭晓这个问题的答案之前，突然想到一世的归国者曾经对笔者说过如此的话。「丈夫平时很少和人接触，家里的电话响了也不接，稍微有点抑郁症，每天都靠药物进行治疗。但是上次参加这里的交流会后，我看到了他久违的笑容」。每周二的交流活动，不只是学习语言，练习太极拳和广场舞。对于归国者大家而言，周二是「大家相聚」的日子，KFC为大家提供了「相聚」的场所。参加交流活动不仅使身心得到放松，而且是具有相同人生经历的人的相聚交流。经过1年的工作，笔者深刻体会到了KFC为大家提供相聚场所的重要性。

对笔者而言，像「一世」、「二世」这样的词语是从开始从事归国者交流工作后才熟识的。词语本身是指归国者世代的不同，但是，现实生活中，同一屋檐下的家庭成员因为世代不同，享受到的国家待遇相差很大。换言之，归国者当中不管世代如何，大家的命运同样受到历史的拨弄，然而回到日本后却受到国家两重的待遇。当对现实的两重待遇诉说不满时，难道我们不应该首先反省一下造成这种两重待遇的根源吗？战后70年间，日本秉承的和平主义在世界上已经成为让日本立足世界的一个品牌。这个70年间被坚守下来的品牌，希望作为维持国民的幸福坚强后盾，在今后的生活中一直被维持下去。（胡源源）

## 編集後記

2015年1月6日は帰国者にとって、今年初めての交流活動の日でした。「あけましておめでとうございます」、あるいは「新年好（中国語の新年の挨拶）」、帰国者たちはお互いに新年の挨拶をしています。彼らの中では既に日本で20数年を過ごす人もいます。中国の旧正月より日本の新年により馴染んでいるかもしれません。今日、帰国者二世の1人は「日本の新年は中国の新年と比べると、休みの意味が大きい。普段働いている人たちは実家に戻り、家族一緒に話したり、ご飯を食べたりする。静かに休んでいる。中国の新年は親戚の間で挨拶して賑やかであるが、新年があけたらとてもしんどい」と私にこう語られました。帰国者の中では、中年になられてから日本に来られる方がかなり多いです。日本に来てから中国で内面化された習慣や価値観を再び社会化することは帰国者たちにとって日常でしょう。中日の違いによる生じた葛藤との交渉が不可欠です。中日の習慣や文化の相違を気軽に言い出せるようになったことはその葛藤を乗り越えた証でしょう。

私は2014年4月から帰国者の交流活動のコーディネータの仕事を担当しはじめ、もうすぐ1年になります。平均年齢60歳の帰国者たちにとって、毎週火曜日に近隣の市からバスや電車の乗り換えをして新長田に来られることは彼らにとって交流活動がどのような存在であるのでしょうか。

ある帰国者一世の方の話を思い出しました。「お父さんは普段はぼ人と接触していない。電話が鳴っても出ない。うつ病にかかっている。毎日薬で治療している。しかし、前回この交流会に参加した後、久しぶりに嬉しい顔をしていた」。毎週の火曜日の交流活動の参加はただ日本語を勉強しに来られたり、中国の太極拳や広場踊りの練習で身体を運動させたりする意味があるだけではありません。帰国者たちにとって、火曜日は「皆が集まる日」であり、KFCの交流活動は「皆が集まる場所」を提供しています。交流活動の参加は心身をリラックスできると同時に、同じく中国から、同じルーツをもっている人たちの集まりです。1年間の交流活動に参加させていただき、KFCの帰国者活動は集まる場所としての重要性を感じ取っています。

「一世」、「二世」という言葉は私にとって、帰国者の仕事をさせていただいてから馴染んできた言葉です。言葉自体は帰国者の世代の違いを指していますが、しかし、現実では、同じ家族メンバーであっても世代によって異なる待遇を受けているケースもあります。つまり、帰国者たちは世代を問わず、中日の歴史によって運命を翻弄されましたが、結局、日本に帰ってきた後、国に二重卒のもとで処遇されました。この二重の卒に不満を訴えようとする際に、その源となる戦争を考えなければならないのではないのでしょうか。日本では、戦後70年の間、世界ですでに日本のブランドとして認められた平和主義が貫かれています。国民のしあわせのために今後も依然として平和の社会を維持してほしいと思います。（胡源源）

編集・発行：

NPO法人 神戸定住外国人支援センター（KFC）

〒653-0038神戸市長田区若松町4-4-10アスタクエスタ北棟502

TEL 078-612-2402 FAX 078-612-3052E-Mail kfc@social-b.net <http://www.social-b.net/kfc>